

岩手医科大学歯学会30周年記念講演



「がんばらない」けど「あきらめない」
—命を支えるということ—

諏訪中央病院 鎌田 實

がんがあちこちに転移しているのに、7年も8年も、ニコニコしながら生きている人がいます。医師として信じられないような人を何人もみてきました。1人で子どもを産むしか、選ぶ道がなかったシングルマザー。余命3ヶ月という告知を受けながら、人生を投げ出さず、子どものために生きたお母さん。人間の体は不思議です。医学や科学の常識を超える命の力をみることがあります。

がんばらないけど、あきらめない見事な生き方をしている人を見てきました。

人生は他の人が代わって生きることはできない。親だって、恋人だって、友人だってできない。その人にしかできない。命はその人のものだ。どんな悲しみがあっても、どんな苦しみがあっても、たった1回の人生を丁寧に生きていくためには、何があっても、人生をあきらめないことが大事だと、たくさんの人から教えられました。

辛い時でも、おいしいものを食べると元気が出てくる。不思議だ。いい歯があったら幸せ。健康とは何かを考えてみます。

14年間、国際医療ボランティア活動をしてきました。白血病で死にかけている子どものために、雪の街の中をパイナップルを探して歩いた日本の若い女性のことを忘れないと、泣きながら語ってくれた貧しい国の母親の思い。命を支えるということはどういうことか考えてみましょう。

当日は父の生まれた東北の地でお話するのを楽しみにしています。生まれること。育つこと。死ぬこと。家族とは。人生とは。たくさんの人によって生かされている人生を語ってみたいと思います。